

市民ネット貝塚行政視察報告書

平成 30 年 8 月 31 日

貝塚市議会議長 様

(参加者)

藪内 留治・阪口 勇・平岩 征樹
川岸 貞利・池尻 平和

○ 8 月 1 日 (水) 盛岡地域地場産業振興センター(盛岡手づくり村)

盛岡市が中心となった近隣の市町村、商工会等、地場産業組合からなる公益財団法人盛岡地域地場産業振興センターと 15 の工房がひとつにまとまった協同組合盛岡手づくり村と南部曲り家を所有する盛岡市の 3 組織で構成されている全国でも例のない複合施設。公益財団や行政という官の持つ公益性と協同組合が持つ柔軟な民間性を併せ持ち、盛岡地域の地場産業の振興発展と観光振興を目的としている。

公益財団法人盛岡地域地場産業振興センターは、地場産業振興という公益事業を展開し、収益を目的とせず、展示即売室や資料室、体験学習を通じて来場者に盛岡地域の地場産品を紹介し啓蒙を図っている。

協同組合盛岡手づくり村は工房という企業の集団であり、ここで作られる商品は盛岡手づくり村に限らず各小売店や百貨店等へ納品されている。入居している工房の職人達は単なる作業を見せる場ではなく、ここが生産工場となっている。

体験型で紹介されている施設なので、地場産業への関心の入り口が広く、年間 40 万人の来場があるそうだ。地域産業の振興発展という観点から、本市にとっても参考になるものであった。



○8月2日（木）オガールプロジェクト（岩手県紫波町）

補助金に頼らない公民連携での地域活性化で全国から注目を集め、今では日本一視察の多い施設の様です。

年間目標 30 万人を大幅に上回る 80 万人を集める施設は、一つの街になっており、カフェや眼科、マルシェなど民間テナント、図書館、子育て応援センター、町役場、バレーボール専用体育館などが併設されています。

テナントを最初に固め費用を算出し、目的会社を設立してオガールプラザを建設。その後、公共部分を町に売却し、足りない費用は融資と出資で賄うという手法は斬新です。かなり自治体としては思い切ったやり方ですが、官民連携の新しい形として勉強になりました。



○8月3日（金）秋田県仙北市のドローンに関する取組み

仙北市は「地方創生特区・近未来技術実証特区」として、ドローンと秘匿通信による図書輸送の実証実験等行っている。

2016年にはドローンインパクトチャレンジアジアカップを開催。特区の規制緩和により、日本のアマチュア無線資格を持たない海外選手の競技参加が可能になるなど、特区特性が活かされたという。民間団体との交流や地域おこし協力隊の取組み、市民へのドローン貸出等説明を受けた。

まだまだ手探りの状態も多いようだが、同じドローン取組みとして、本市の今後に参加になるものであった。